

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292600127		
法人名	医療法人社団 千葉医心会		
事業所名	グループホーム島田 (1F・2F合同)		
所在地	八千代市島田40-32		
自己評価作成日	平成26年2月1日	評価結果市町村受理日	平成26年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602
訪問調査日	平成26年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域とのふれあいを大切にしながら家庭的で笑顔のあふれる場所にしましょう。という理念をモットーに日常生活を通して入居者とスタッフ一丸となりがんばってます。
 医療法人の利点を活かし、医師や看護師との連携を密に行い、適切な医療を提供しています。
 法人内にはいろいろな施設があり、その人その人にあったサービスをご紹介できる体制があります。職員も法人内の異動等で経験をつみ幅広い対応を身につけることができ、たくさんの高齢者介護を経験できます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

八千代市郊外の閑静な住宅街のはずれに施設専用で建てられた2階建て2ユニットのホームです。敷地が広く、灯籠等を配した素敵で広い庭があり、駐車場も広いので車で気軽に訪れる事が出来ます。
 運営法人の理事長が医師で、月2回の訪問診療の他随時往診に来て、担当専門外の場合は専門の医師に紹介状を書いています。また、訪問看護ステーションと系列クリニックからそれぞれ看護師が週1回来訪しています。母体が医療機関であることから、利用者の健康を管理する体制ができており、家族との話し合いでターミナルケアも受け入れています。
 日々の支援では、入居者の残存能力を生かす事と自立支援に重点を置き、能力に応じて役割を決め調理の下ごしらえ等分担して貰っています。適切なトイレ誘導で失禁が無くなった例もあります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (1F)	外部評価 (1Fと2F合同)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域とのふれあいを大切にしながら家庭的で笑顔のあふれる場所にしましょう。」という理念を掲げています。学習会や会議などを通して周知すると共に、生活を通して入居者とスタッフ一丸となり実践しています。	理念をリビングの壁上部に、見えやすいように大きな文字で掲示しています。職員達も理念は常に念頭においており、「地域とのふれあい」は立地上決して容易ではありませんが、日々の介護で理念の実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と共に散歩に出かけたり、地域のボランティアとの行事の実施や体験学習など中学生の受け入れなどを行っています。	地域の福祉祭りに招待され利用者も参加したり、散歩の途中で近くのギャラリーに立ち寄り主人と話したりしています。ホームには、敬老会に歌や踊り・太鼓のボランティアがやって来て盛り上げてくれます。4人の中学生が福祉学習体験として2日間交流にやって来ています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	具体的な実践状況にはないが、これから町内の行事への参加や近隣との交流を重ね、認知症への理解や支援をして頂けるよう努めていきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当ホームの利用者やサービスの実際、取り組みについて説明します。防災の協力体制や地域の一員としての取り組み方などを話し意見を頂いています。	会議は、地域包括支援センター、町内会長、民生委員、介護相談員等を外部から招き、奇数月に定例的に開催しており、地域との交流の方策、防災対策、感染症対策等について話し合い、それぞれ得意分野からのアドバイスを受けています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市との連携は電話やFAXで行っています。市役所の適切なアドバイスをいただきケアの向上に努めています。入退居の情報や現況について連絡を取り合っています。	市の担当はもとより、市職員である地域包括支援センターや介護相談員がホームの実情をよく理解してくれており、アドバイスを受けつつ、協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等参加し、施設でも一人ひとりの身体拘束をしない工夫について職員間で話し合っています。	日中玄関は施錠していません。1階、2階とも玄関・階段への出口は施錠されていますが、ボタン一つで誰でも解錠できます。身体拘束については、内部研修を通じ禁止の対象となる具体的な行為を職員もよく理解しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会にて学ぶ機会をもうけ、常に全職員が利用者の尊厳を守るよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価（1F）	外部評価（1Fと2F合同）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要のある方には関係者と連携が取れるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談、申し込みの際には実際に見学をしていただくなど、時間をとって説明し理解して頂くよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は、入居者やご家族の意見、不満、苦情に対して常に耳を傾けるよう努めています。お便りや新聞での状況報告の他に面会の際にご希望や意見を聴取したり、頂いたご意見を会議等で話し合い改善に取り組んでいます。	利用者については日頃のケアの中で思いや意向を把握するようにしています。家族については、面会の為の来訪時や運営推進会議の場、ケアプランの作成の際に意見や要望を聞くように努め、ケアプランに落とし込む等運営に反映させています。	外部評価に際し実施する家族アンケートは、一番本音が出やすいものです。出来るだけ多くの回答が寄せられるよう、家族に働きかけると共に、アンケート結果について全職員で真剣に対応策を話し合うことが望まれます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とは日々の業務活動の中や職員会議等で意見交換し管理者会議等で話し合い、運営に反映しています。	月1回開催する職員会議や朝の引き継ぎ時及びケアプラン作成時に職員の意見を引き出すようにしています。職員もケアのやり方の様な身近な問題に対し積極的に意見を出しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者の報告を受け勤務状況を把握し、給与や労働時間等、働きやすい職場の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月担当を決めて学習会を行っています。そのほかにも法人内外の研修がある場合は参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の施設合同で話し合いを行ったり勉強の場を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価（1F）	外部評価（1Fと2F合同）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホーム見学時に家族と一緒に来訪してもらい、入居者と一緒にお茶の時間に参加していただいたり、話を聴く機会を作っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話での相談や直接来所された際には、困っていらっしゃる、不安なこと、要望等を伺い思いを受け止められるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に応じながら、生活面、健康面、経済面等を把握し、他の選択肢も含めた対応に努め、必要があれば、他のサービスを利用できるよう、他の施設の相談員とも連携が取れるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と共に、食事の下ごしらえや片付け、洗濯物をたたんだり掃除するなど、入居者の生活歴になじんできたことを生かし「一方的な介護ではなく、できない事をお手伝いする、入居者主体のケア」を心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	希望する場合は、電話や手紙による交流を支援したり、面会を要請したりしています。可能な場合は行事に参加してもらい、一緒に楽しんでもらっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や年賀状、電話等で連絡が取れるように努めています。	家族と墓参りや馴染みの美容室に行ったり、正月に外泊する方もおり、関係継続のための支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を把握し、楽しく参加できるレクをおこなったりユニットで区切らず自由に交流を持てるようにしたり、食事の席などを考慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価（1F）	外部評価（1Fと2F合同）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙などでの交流や退居先の施設に面会に行ったり、必要に応じて家族と連絡をとる場合があります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に直接希望を伺ったり、日ごろの会話の中で意識して意向を引き出せる言葉かけをするよう努めています。困難な方には言動や生活歴から思いを読み取り、職員間で検討し入居者本位のケアに努めています。	農家出身の方と共にトマトやうり、かぼちゃなどの野菜の種を買ってきて育て、皆で収穫しています。取れた野菜で漬物を作って食べるなど、好きなこと、得意なことを見つけて支援しています。また帰宅願望のある利用者には家族に面会に来て貰うなど協力を仰いで思いに添うよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者が今までどのように過ごされてきたかを聞き取り、日ごろから趣味や意向を汲み取れるよう努めています。スタッフ間で共有できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の言動や行動で、状態を把握するよう努めています。本人の今できる力、環境のバランスを考え、できるだけ活動して頂いています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々、スタッフや家族等関係者と相談し、状態の把握に努めています。ケースカンファレンスにて対応を話し合い、介護計画に反映しています。	入居時に本人・家族からの聞き取りをもとに暫定の介護計画を立てます。その後1週間ほど様子を見て医師や看護師からの情報、職員の意見を含めて担当者会議で検討し本プランを立てています。半年ごとにモニタリングとプランの見直しをしています。	介護計画で立てた目標達成に向けて、日々の支援が適正で効果があるかを毎月のモニタリングで確認し、必要があれば計画を見直すとともに、職員一人ひとりが計画に基づいた支援を行うためにも、介護計画の位置づけを明確にすることが望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員はその日の個々の様子をケース記録に記録し職員間で情報共有をし介護計画の見直しに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医の往診、週1回の訪問看護など協力医療機関等を活かして支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価（1F）	外部評価（1Fと2F合同）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて協力しながら支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の定期的訪問や受診、必要な場合は協力医療機関との連携を常に支援しています。	運営法人の理事長が医師で、月2回の訪問診療の他、随時往診にきています。週1回の訪問看護とは別に、系列クリニックの看護師がかかりつけ医との連携及び職員教育のために毎週訪問しています。母体が医療機関であることから、利用者の健康を管理する体制ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連絡を取り、週1回の訪問を受けるとともに、日常で捉えた本人の変化や病状を記録、報告、相談するなどしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と十分に話し合い見舞いに行くなど安心して療養できるよう声かけしたりしています。入院中の状況を把握するため医師や相談員と情報交換を密にし退院後も適切な対応ができるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に本人・家族に予め対応や方針をお聞きしています。そして病状の変化があるときは、その都度説明し家族のご意向に沿うように対応をしています。家族との話し合いで、ターミナルケアも受け入れています。	入居時に本人・家族に「延命処置等に関する要望書」を示し、緊急時や重度化した場合の意向を聞きとっています。終末期には医師を交えて家族と十分に話し合い、方針を決めて同意を得ています。	早い段階で本人・家族の終末期についての意向を聞いていますが、家族・職員とも状態の変化に余裕を持って対応するためにも、更に話し合いを重ねて意識を共有し、利用者を共に支える仕組みを整えることが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療法人のメリットを活かし、すぐに医師や看護師と連携できるような体制をとっています。また職員においては研修や学習会等で対応を学び、慌てず対応できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を配置し、指示のもとに定期的に訓練を実施している。	スプリンクラー等防火上義務付けられている設備は完備しています。非常口は通常施錠していますが、職員は鍵の保管場所を熟知しています。夜間想定避難訓練を実施していますが、消防署や地域との協力関係は十分とは言えません。	万一の火災に備え、想定しうる様々なケースについて優先対応手順を全職員が身につけておく事、首都圏での大規模災害が懸念される折から、避難訓練の強化、備蓄品の内容・数量の見直しが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価（1F）	外部評価（1Fと2F合同）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者1人ひとりの尊厳やプライバシーを尊重し、言葉掛けや態度等適切な対応に努めています。	利用者の尊厳・権利を守ることについて内部で研修しています。排泄や入浴時には羞恥心に配慮するとともに、目上の人として尊敬の念を持って接するよう努めています。また個人情報の使用については本人・家族に同意を得ています	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	関わっている職員が、日ごろからご本人の意向に耳を傾け、それが実現できるように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者本人の言葉に耳を傾け、趣味や嗜好等の把握に努め楽しみを持ちながらくつろいだ居心地の良い生活が送れるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれが楽しくなるようにお化粧を行ったり、身だしなみに対して職員は気にかけて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好き嫌いを把握し、お粥や刻み食などにも対応しています。職員と一緒に下ごしらえや片付けを行ってもらっています。	包丁で野菜を刻む・皮をむくなど食材の下ごしらえや食器洗いなど、利用者のできることを見つけて支援しています。誕生日にはケーキを作ったり、毎月お好み焼きや餃子を焼いて食事を楽しむ支援をしています。寿司職人を招いて目の前で握ってもらうこともあり、大変喜ばれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のほかにお茶の時間を設けたり、食事や水分の摂取で変化のある方については、摂取量を記録し把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じて協力しながら支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価（1F）	外部評価（1Fと2F合同）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の能力に合わせてできる限りトイレでの排泄を支援しています。排泄パターンの把握に努めています。	排泄チェック表により個々の排泄パターンを把握し、尿パッドとDパンツなどの排泄用品を工夫したり、トイレ誘導することにより失禁がなくなった例があり、排泄の自立を支援している様子が窺えます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取や運動を促したり、食事を配慮しています。必要な場合は医師や看護師に相談しています。排便の有無をチェックし、状態の把握に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日3人を程度、介助の必要な状態や本人の希望に応じて入浴して頂いています。入浴剤などを入れ気分転換を図るなど工夫しています。	1日3人のペースで入浴していますが、その日の利用者の状態で柔軟に対応しています。拒否のある方には、声かけを工夫して入浴を促し、足浴やシャワー浴で対応することもあります。拒否の原因を探り支援の方法を検討しているところです。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調を把握し、本人のペースを尊重し場合によっては疲れたら横になるなど、安心して安眠や休息ができるように配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとひとりの病歴を把握し、処方箋をファイリングし内容の理解ができるようにしています。誤薬等ないように配薬前には2人で確認。内服時には、内服を確認するまで離れないよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴、趣味、能力を活かせるよう、活動の場で役割を持っていただき、散歩ドライブ等で気分転換等の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望に応じて、散歩や買い物、美容室に出かけたり、家族とお墓参り等に行かれたりしています。	天気のよい日の午前中はゆっくり散歩に出かけています。車でドライブがてら買い物をしたり、季節の行事として初詣や桜見物、地域のお祭りにも出かけています。外気浴のために広い庭を活用することを考えています。	

自己	外部	項目	自己評価（1F）	外部評価（1Fと2F合同）	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の金銭管理の能力を見極め、家族と相談し状況に合わせて、買い物をしてお金を使う喜びを感じてもらえるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	食堂にいつでもかけられる電話があり、職員が対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的な清掃と換気を行い、清潔で居心地の良い環境を保つよう心がけています。玄関や食堂等には季節感のある掲示物やお花を飾り工夫しています。	畳の部屋を備えた居間兼食堂、玄関、階段、廊下、トイレ等共用空間は余裕のある広さで、広い庭があるので、居間兼食堂は明るくて見晴らしが良く、大きな利用者手作りのカレンダーその他の飾りや花で季節が感じられ、調理の匂いや音で家庭的な雰囲気が感じられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者同士の席に配慮しています。他の入居者の部屋へ遊びにいけるような雰囲気をつくっています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談し、なじみのある家具や思い入れのある品を居室に置き、安心して落ち着いて過ごせるよう工夫しています。	居室は空調・クローゼット・洗面台に加え、壁面に衣類等を掛けやすいようにレールが備え付けられ、整理しやすくなっています。ベッドや防火カーテンその他、ダンス、机、椅子、テレビ、ぬいぐるみ、写真等好みのもの、馴染みのものが持ち込まれ、居心地良い場所となるよう配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりのできる力をよく把握し、自立した生活ができるように見守り、混乱や失敗しないようわかりやすく安全に配慮しながらお手伝いしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (2F)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域とのふれあいを大切にしながら家庭的で笑顔のあふれる場所にしましょう。」という理念を掲げています。学習会や会議などを通して周知すると共に、生活を通して入居者とスタッフ一丸となり実践しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と共に散歩に出かけたり、地域のボランティアとの行事の実施や体験学習など中学生の受け入れなどを行いました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	これから町内の行事に参加し、認知症への理解や支援をして頂けるようつとめていきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当ホームの利用者やサービスの実際、取り組みについて説明し、理解して頂けるよう努めていきたい		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市との連携は電話やFAXで行っています。市役所の適切なアドバイスをいただきケアの向上に努めています。入退居の情報や現状について連絡を取り合っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等参加し、施設でも一人ひとりの身体拘束をしない工夫について職員間で話し合っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会にて学ぶ機会をもうけ、常に全職員が利用者の尊厳を守るよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価 (2F)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要のある方には関係者と連携が取れるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談、申し込みの際には実際に見学をしていただくなど、時間をとって説明し理解して頂くよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は、入居者やご家族の意見、不満、苦情に対して常に耳を傾けるよう努めています。伺ったご意見等については、担当者や会議で話し合い改善に取り組んでいます。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とは日々の業務活動の中や職員会議等で意見交換し管理者会議等で話し合い、運営に反映しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者の報告を受け勤務状況を把握し、給与や労働時間等、働きやすい職場の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月担当を決めて学習会を行っています。そのほかにも法人内外の研修がある場合は参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の施設合同で話し合いを行ったり勉強の場を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価 (2F)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホーム見学時に家族と一緒に来訪してもらい、入居者と一緒にお茶の時間に参加していただいたり、話を聴く機会を作っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話での相談や直接来所された際には、困っていらっしゃること、不安なこと、要望等を伺い思いを受け止められるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に応じながら、生活面、健康面、経済面等を把握し、他の選択肢も含めた対応に努め、必要があれば、他のサービスを利用できるように、他の施設の相談員とも連携が取れるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と共に、食事の下ごしらえや片付け、洗濯物をたたんだり掃除するなど、入居者の生活歴になじんできたことを生かし「一方的な介護ではなく、できない事をお手伝いする、入居者主体のケア」を心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	希望する場合は、電話や手紙による交流を支援したり、面会を要請したりしています。可能な場合は行事に参加してもらい、一緒に楽しんでもらっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や年賀状、電話等で連絡が取れるように努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を把握し、楽しく参加できるレクをおこなったりユニットで区切らず自由に交流を持てるようにしたり、食事の席などを考慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価 (2F)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙などでの交流や退居先の施設に面会に行ったり、必要に応じて家族と連絡をとる場合があります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に直接希望を伺ったり、日ごろの会話の中で意識して意向を引き出せる言葉かけをするよう努めています。困難な方には言動や生活歴から思いを読み取り、職員間で検討し入居者本位のケアに努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者が今までどのように過ごされてきたかを聞き取り、日ごろから趣味や意向を汲み取れるよう努めています。スタッフ間で共有できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の言動や行動で、状態を把握するよう努めています。本人の今できる力、環境のバランスを考え、できるだけ活動して頂いています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々、スタッフや家族等関係者と相談し、状態の把握に努めています。ケースカンファレンスにて対応を話し合い、介護計画に反映しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員はその日の個々の様子をケース記録に記録し職員間で情報共有をし介護計画の見直しに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医の往診、週1回の訪問看護など協力医療機関等を活かして支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価 (2F)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて協力しながら支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の定期的訪問や受診、必要な場合は協力医療機関との連携を常に支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連絡を取り、週1回の訪問を受けるとともに、日常で捉えた本人の変化や病状を記録、報告、相談するなどしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と十分に話し合い見舞いに行くなど安心して療養できるよう声かけしたりしています。入院中の状況を把握するため医師や相談員と情報交換を密にし退院後も適切な対応ができるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に本人・家族に予め対応や方針をお聞きしています。そして病状の変化があるときは、その都度説明し家族のご意向に沿うように対応をしています。家族との話し合いで、ターミナルケアも受け入れています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療法人のメリットを活かし、すぐに医師や看護師と連携できるような体制をとっています。また職員においては研修や学習会等で対応を学び、慌てず対応できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を配置し、指示のもとに定期的に訓練を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価 (2F)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者1人ひとりの尊厳やプライバシーを尊重し、言葉掛けや態度等適切な対応に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	関わっている職員が、日ごろからご本人の意向に耳を傾け、それが実現できるように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者本人の言葉に耳を傾け、趣味や嗜好等の把握に努め楽しみを持ちながらくつろいだ居心地の良い生活が送れるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれが楽しくなるようにお化粧品を行ったり、身だしなみに対して職員は気にかけて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好き嫌いを把握し、お粥や刻み食などにも対応しています。職員と一緒に下ごしらえや片付けを行ってもらっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のほかにお茶の時間を設けたり、食事や水分の摂取で変化のある方については、摂取量を記録し把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じて協力しながら支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価 (2F)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の能力に合わせてできる限りトイレでの排泄を支援しています。排泄パターンの把握に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取や運動を促したり、食事を配慮しています。必要な場合は医師や看護師に相談しています。排便の有無をチェックし、状態の把握に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日3人を程度、介助の必要な状態や本人の希望に応じて入浴して頂いています。入浴剤などを入れ気分転換を図るなど工夫しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調を把握し、本人のペースを尊重し場合によっては疲れたら横になるなど、安心して安眠や休息ができるように配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとひとりの病歴を把握し、処方箋をファイリングし内容の理解ができるようにしています。誤薬等ないよう配薬前には2人で確認。内服時には、内服を確認するまで離れないよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴、趣味、能力を活かせるよう、活動の場で役割を持っていただき、散歩ドライブ等で気分転換等の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望に応じて、散歩や買い物、美容室に出かけたり、家族とお墓参り等に行かれたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価 (2F)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の金銭管理の能力を見極め、家族と相談し状況に合わせて、買い物をしてお金を使う喜びを感じてもらえるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	食堂にいつでもかけられる電話があり、職員が対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的な清掃と換気を行い、清潔で居心地の良い環境を保つよう心がけています。玄関や食堂等には季節感のある掲示物やお花を飾り工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者同士の席に配慮しています。他の入居者の部屋へ遊びにいけるような雰囲気をつくっています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談し、なじみのある家具や思い出のある品を居室に置き、安心して落ち着いて過ごせるよう工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりのできる力をよく把握し、自立した生活ができるように見守り、混乱や失敗しないようわかりやすく安全に配慮しながらお手伝いしています。		